

- こうべまちづくり学校基礎講座募集中 (P.1)
- こうべまちづくり会館開館15周年記念イベント開催中 (P.2)
- 「山麓リボンの道」を行く～その7 (P.3)
- 神戸らしい眺望景観10選を訪ねて「アジュール舞子からの眺め」 ほか (P.4)

発行：神戸市立 こうべまちづくり会館

バックナンバーはこちら <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/>

平成21年度こうべまちづくり学校基礎講座募集

協働と参画のまちづくりを目指してまちづくりの基礎を学ぶ講座です。

	日時	テーマ	内容	講師
1	5月21日 (木)	神戸のまちの歴史	神戸の歴史を通して、神戸のまちの成り立ちを学びます。	田辺 真人 氏 園田学園女子大学教授
2	5月28日 (木)	まちおこしのすすめ	「まちづくり道場」を主催し、地域の人材・資源をいかしてまちおこしを実践されている視点から、まちづくりのコツなどを学びます。	片寄 俊秀 氏 大阪人間科学大学 環境・建築デザイン学科教授
3	6月4日 (木)	神戸のまちづくり ・ルールづくり	地域で活用できるまちづくりのルールや、それを活用した実際のまちづくりについて学びます。また、神戸らしい眺望景観についても紹介します。	三輪 康一 氏 神戸大学大学院 工学研究科准教授
4	6月11日 (木)	「安全安心まちづくり」 -人と人とのつながりを考える-	私たちを取り巻く自然災害・犯罪などに対しどのように対処していくか、人と人、人と地域とのつながりから「安全で安心なまちづくり」を考えます。	渥美 公秀 氏 大阪大学大学院 人間科学研究科准教授
5	6月18日 (木)	これからの 神戸の地域活動	震災から15年目を迎えた、神戸の地域活動の現状と課題はなにか、さまざまなデータや資料を通して学びます。	立木 茂雄 氏 同志社大学社会学部教授

※内容は変更することがあります。

- ◆会場・時間：こうべまちづくり会館 午後6時30分～8時30分
- ◆定員：80名 (応募者多数の時は抽選となります。)
- ◆受講料：¥1,000 (4月上旬に案内と納付書をお送りします。期日までに受講料の振込がなく、1回目の授業を欠席された場合は、キャンセル扱いとなります。)

◆申込方法

受講希望の方は、①講座名「こうべまちづくり学校基礎講座」、②氏名(フリガナ)、③住所(郵便番号)、④年齢、⑤性別、⑥電話番号、⑦職業、⑧これまでの受講の有無、⑨まちづくり協議会・自治会などの地域団体の役職(該当の方)をご記入の上、FAX、はがき、E-mailで下記まで

こうべまちづくり会館 〒650-0022 神戸市中央区元町通4-2-14

FAX：078-361-4546

E-mail：mati2@kobe-toshi-seibi.or.jp

◆申込締切日 3月19日(木) 必着

※ご記入いただいた個人情報は、こうべまちづくり学校に関する事務、まちづくりに関する情報の案内(希望者のみ)以外に利用いたしません。

●秋からは、各分野に分かれてまちづくりについてより深く学ぶ「専修講座」を開催します

コース	コース名	回数・定員
A	地域活動「ちえぶくろ」の活用講座	5回・30名
B	「安全で安心なまちをつくる」防災コミュニティづくりコース	5回・80名
C	「安全で安心なまちをつくる」防犯コミュニティづくりコース	5回・80名
D	まちなみゼミ ～景観とまちづくり～	6回・40名
E	まちづくりゼミ ～地域からのまちづくり～	4回・50名
F	まち歩き実践ゼミ ～まちづくりの実例を通して～	4回・40名
G	まちに刻まれた土木を訪ねる	3回・40名

※募集は7月、講義は9月開始の予定です。詳しくは、あーばんとーく別刷(夏頃)、あじさい市民大学夏号等でお知らせします。

※講座の内容、回数、定員については変更することがあります。

こうべまちづくり会館開館15周年記念イベント開催中

■震災復興航空写真パネル・模型展

森南第一・第二・第三、六甲道駅北・西、松本、御菅東・西、新長田駅北、鷹取東第一・第二の震災復興土地区画整理事業、六甲道駅南、新長田駅南の震災復興市街地再開発事業の事業区域内の震災前・震災直後・現在の航空写真が1/2,000の大きさに展示され、それぞれの地区の復興まちづくりの状況がよく分かります。



また、鷹取東第一地区（復興区画整理）、六甲道駅南地区（復興再開発）の迫力ある模型も展示され、来館者のみなさんの注目を集めました。



■QTVRで見る震災復興の今



神戸市内の震災復興土地区画整理事業地区・震災復興市街地再開発事業地区の最新映像をQTVRで紹介しました。

QTVR (Quick Time Virtual Reality) は、デジタルカメラで天地を含む全方向を撮影し、コンピュータ上の仮想空間に再現したもので、神戸市在住のQTVRクリエイター山道正男さんによるものです。

パソコンの簡単な操作で、周囲をぐるりと見渡したり、上空を見上げたり、地面を見下ろしたりと、臨場感あふれる全周・全天の映像で震災復興事業地区の今を見ることができました。



■1000枚の写真で振り返る阪神・淡路大震災

阪神・淡路大震災から14年が経過し、神戸のまちで震災の傷跡を目にする機会も減っていますが、1・17「あの日」の記憶を風化させないために、神戸新聞社の全面的なご協力のもと、写真展を開きました。



震災直後に神戸新聞のカメラマンによって撮影され、新聞紙面に掲載されたもの、2004年に発行された報道写真集「阪神・淡路大震災10年全記録」掲載のものなど、膨大な写真の中から約1000枚の貴重な写真を展示しました。



倒壊した建物や道路・鉄道の高架、陥没した道路や突堤、必死の救助活動や避難者の様子などの写真を前に、当時の記憶が鮮明に蘇りました。



また、震災直後に、作家・陳舜臣氏が神戸新聞に寄せた「神戸よ」のパネルも展示しました。

■これからの催し

1/31フォーラム「まちづくりの若き担い手、おおいに語る」、2/1講演会とワークショップ「マンションと地域の共生～Part II」、2/15こうべまちづくり学校特別講座公開フォーラム「ひろがる×ひろげる まちづくり活動～新たなまちづくりの参加手法をまなぶ～」など、今後も多彩な記念イベントが続きます。



詳しくは、当会館ホームページをご覧ください。
<http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/7special/event.htm>

「山麓リボンの道」を行くーその7:いそかぜのみち(Ⅱ)

森崎輝行(いきいき下町推進協議会)

今回の山麓リボンの道は、「須磨 智慧の道」(須磨寺参道)のお大師広場から始まります。整備された千森線(東須磨と西須磨の境界の道路)を渡り、やや上りの大きな通りを西に100m程行けば道標があります。そこを左に折れると小径となります。静かな住宅地を進むと、300m程で関守稻荷が現れます。このあたりに古代の須磨の関があったといわれていますが、現在でも正確な位置は謎のままです。境内には、平安時代末期の歌人源兼昌の「淡路島 かよう千鳥の鳴く声に いく夜寝ざめぬ須磨の関守」の歌碑が立っています。南下し、山陽電車のガードをくぐると村上帝社がありますが、琵琶の名手であった太政大臣藤原師長もろなががこの地を旅した時、神霊となって現れた村上天皇が琵琶の妙手を授けたとされています。

山麓リボンの道は、南下せず西に進み、細いT字路を左折し、山陽須磨駅下のトンネルをくぐると国道2号に出ます。駅前から国道を渡ると、国道とJRとの間に西に延びる幅2m程の小さな道があります。地元で「中道」と呼ばれている古い道すだれです。

「摂津名所図会」には、須磨簾について、「西須磨の家毎に 常に表の方 簾を垂るなり ~ 安徳天皇をはじめ奉り大宮人 此のすまの里 海士の苦家あま とまやに入らせ給い しばらく行宮とし給はむ時 家毎に翠簾をかけしなり 其遺風今にありけるとぞ」と、その海辺の村の風情が、故事にことよせて記されています。「須磨簾は、ここの名物で、長さが約1間、幅約3尺あり、竹を2つ割にしたものを細縄で編んだもので、昭和40年ごろまで持っている人もいた」(兵庫の街道いまむかし/橘川真一編)らしい。しかし、現在はその面影もなくなってしまっています。

この「中道」をさらに、西へ500m程行き、再び山麓リボンの道は国道2号を北に渡ります。

日本書紀では、「大化2年(646)畿内の西限を赤石の櫛淵と定めた」と記載されていますが、この辺りのことです。「櫛淵」とあるのは、須磨と塩屋の間のせり出した鉢伏山の谷が、東から一ノ谷、二ノ谷、三ノ谷と呼ばれていたように、海岸線が櫛の歯のような形をしていたからです。また、「播磨巡覧記(めぐり)/明和壬辰春新刊」の「一ノ谷」のところには、「谷幅20間、兩岸岩の高さ12間余也。又此谷より波打際迄凡一町ばかり也」とあり、当時の自然地形を伺い知ることが出来ます。一ノ谷が有名なのは、源平の一ノ谷の合戦による知名度のためで、現在、須磨浦公園には、源平ゆかりの「戦の浜」の碑があります。

山道を登ると安徳帝内裏跡と伝わる所にでます。平清盛の娘、建礼門院徳子を母として生まれ、2歳(治承4年/1180)で即位した安徳天皇の内裏が、一時置かれたとの伝説の地です。その後、安徳天皇は、平家一門と西に逃げる途中、寿永4年(1185)壇ノ浦で祖母の二位尼に抱かれ入水したといわれています。

安徳帝内裏跡伝説地の西側には、先のNHK大河ドラマで再注目されている「和の宮」の木像が安置されています。近くに和の宮の許嫁であった有栖川智仁親王の屋敷(現在の舞子ピラ)があったことからでしょうか。



「和の宮」の木像

そういえば、この北隣りには、神戸南洋植物パークの巨大な鉄骨球形(直径約35m)のガラス張りのケージ(温室)があったことを思い出しました。「海外移住した人々の救援事業資金を求めることを第一目的として、昭和39(1964)年11月に開設されました」(兵庫県大百科事典/神戸新聞社発行)が、閉園や建物解体の時期は定かではありません。さまざまな資料に基づき類推しますと1988年閉園、1993年には取り壊されたようです。詳しくご存知の方があれば、一報ください。

開園されていた当時、南洋の植物(資料によると熱帯植物百数十種6000株)以外に恐竜の巨大模型があり、団塊の世代の筆者の子供が楽しんでいたのが懐かしく想いされます。また当時周辺には、大きな敷地の異人館が数多くありました。今は、住宅地として変貌し、細分化されています。

さて、再び須磨浦公園に向け、南下します。



みどりの塔

公園内には、前述の「戦の浜」の碑の他、彫刻家新谷秀雄氏の作品を中心にした「みどりの塔」があります。この「みどりの塔」は、昭和29年4月、国土緑化大会植樹祭の時、天皇・皇后両陛下の御来

神記念として建てられたものです。また、この松林一帯は、正岡子規が療養した「須磨保養院」があったことでも知られています。このあたり一帯は歴史文化の宝庫だったのでね。

神戸らしい眺望景観 10 選を訪ねて 「アジュール舞子からの眺め」

～世界一の橋が架かる雄大な景色です～

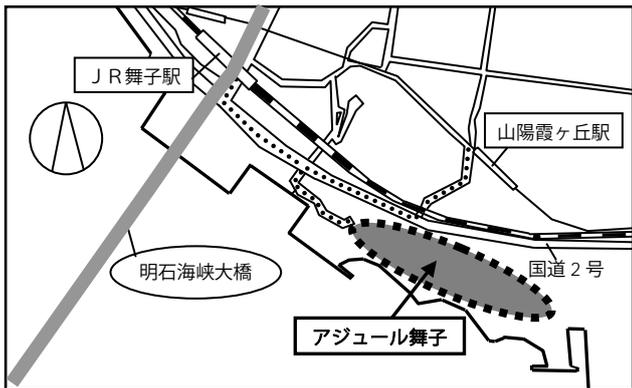


アジュール舞子は、古くから親しまれてきた白砂青松の景勝地「舞子の浜」を復元した公園であり、延長約800mの美しい砂浜が東西に広がり、その中に、松を中心とした植栽、芝生広場などがあります。夏には海水浴場として、また、春・秋には散策やバーベキューなど、1年を通じて楽しめるレジャーゾーンです。

砂浜に立つと、松林を背に、眼前に瀬戸内海と淡路島の風光明媚な自然、そこに世界最長の吊橋が一体となった雄大な眺望景観が望めます。

また、夜には、明石海峡大橋が美しくライトアップされ、須磨海岸とは一味違った景色が楽しめます。ぜひ一度、訪れてみてください。

(都市計画総局計画部景観室)



■アジュール舞子
 JR「舞子駅」より徒歩7分
 山陽電鉄「霞ヶ丘駅」より徒歩5分
 駐車場 400台 (有料)
 開園時間 午前6時～午後11時

まちづくり会館 展示のお知らせ

1階オープンギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主 催 者
2月	北区フォトコンテスト受賞作品展	神戸市
3月	まちづくり学校パネル展	神戸市

※展示期間が変更になる場合があります。

地階ギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主 催 者
2月12日(木) ～ 17日(火)	第6回須磨火曜スケッチの会 作品展<水彩>	須磨火曜スケッチの会
2月19日(木) ～ 24日(火)	第11回遊遊会水彩画展	遊遊会
2月26日(木) ～ 3月3日(火)	きんもくせいの会展<油彩水彩他>	きんもくせいの会
3月6日(金) ～ 3月10日(火)	ぐるーぷ ひらの 油彩展	ぐるーぷ ひらの
3月13日(金) ～ 3月17日(火)	ドキドキ展<水彩他>	もとまちハートミュージアム2009
3月19日(木) ～ 3月22日(日)	墨咲会 水墨・墨彩画展	墨咲会
3月26日(木) ～ 3月31日(火)	兵庫倶楽部写真会 写真展	兵庫倶楽部写真会

※初日、最終日は展示時間が変更になる場合があります。



こうべまちづくり会館

開館時間：午前10時～午後6時(水曜日休館)
 場 所：元町商店街4丁目西端の南側角
 地下鉄海岸線「みなと元町駅」西1出口から北へ1分
 神戸高速「花隈駅」東口から南へ3分
 「西元町」東口から東へ5分
 JR・阪神「元町駅」西口から西へ8分
 〒650-0022 神戸市中央区元町通4丁目2-14
 電話：078-361-4523 FAX：078-361-4546
 ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)

自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談
 受付：午前10時～午後6時(水曜日休館)
 ただし、印刷は5時まで
 電話・FAX：078-361-4565